

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600455		
法人名	有限会社 フクダ		
事業所名	グループホーム こすもすの家		
所在地	岡山県美作市真加部1385-1		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 23 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373600455&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意志を尊重しつつ、その人らしい生活を送っていただけるように介護をおこなっています。入居者の皆さまの体調管理や水分補給に注意しながら日々の生活を楽しく元気に送っていただけるように援助しています。季節の行事を取り入れ、季節を感じとれるようにしています。今持っている能力を充分に発揮できるように、手芸や物作りなどを取り入れ楽しめるようにしています。レクリエーションや生活リハビリも日々の生活に取り入れています。時間を気にすることなく、のんびりゆったりとした生活ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ボーと座っていないで何かしよう~”から始まったという作品作りは、利用者も、アイデアを出す職員達もとても熱心で、こんなに大々的にしているホームは少ない。玄関に入った途端に奇抜で独創的な作品が出迎えてくれ、見ただけで楽しい気分になれる。まるでギャラリーのような雰囲気。ダンボールで作った来年の干支のイノシシの壁絵の見事さに目を奪われたが現在創作途中と聞いたので、完成が楽しみである。塗り絵に取り組んでいる男性利用者の〇〇さんは「昼起きていないと、夜眠れないから」と、日中は得意な折り紙作品を創ったり、いろいろな事に挑戦している。「一人ひとり、その場、その場面の笑顔が大切」と社長が話すように、このホームの利用者は笑顔が多く、楽しそうな笑い声もリビングからよく聞こえる。アニマルセラピーではないが、猫も数匹いて、利用者と一緒に入所した猫1匹、勝手に住みついたという猫数匹が仲良く共生している。敷地内には社長宅、グループホーム、デイサービス、居宅、訪問介護の事業所があり、地域福祉の中心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時に再度確認しあい、実践につなげている	理念は一貫してぶれることなく職員間に浸透し、「楽しく、仲よく、元気よく」を今年度のスローガンに掲げている。利用者がそれぞれ心豊かに自分らしく輝いて穏やかに歳を重ねていける生活をしっかりサポートし、生きがいのある生活を実現させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地区の保育園や小学校との交流を図っている	すぐ近くに小学校と中学校があり、小学校の運動会では玉入れに参加したり、地域の「ワンコインカフェ」や「お元氣りハ」に参加する等、地域との交流も活発にしている。社長家族は代々地域に貢献してきた地元の人であり、地域の理解と信頼が厚いホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員、愛育委員、老人会、地区の住民の方に参加をして頂き、入居者、入居者の家族を交えて、認知症の話聞いていただき理解を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、現状報告等を行い、そこで出た意見を参考に次の介護サービスの向上の参考にしている。また地域活動の情報を得て、入居者の参加につなげている	市の担当者、地域包括、民生委員、利用者、家族等の参加があり、定期的に開催出来ている。利用者の現状報告、行事予定、その他、の議題を主に置き、ざっくばらんで忌憚のない意見交換をしている。	遠方の家族も多く運営推進会議に家族への参加を得るのが難しければ、年1回の家族会の時だけでなく、開催の都度、議事録を送付して運営状況をお伝えする方法を検討してみてもどうかと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談したり、運営推進会議に参加していただき、意見を聞いて協力関係を築くようにしている	市の担当者には日頃からホームの実情をよく理解してもらっており、良い関係が築けている。地域包括主催の認知症サポーター養成講座を受けたり、今年度は市の実地指導もあった。些細な事でも相談して助言・指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ積極的に参加している。また、ミーティング時に例題を出し勉強会を行っている	拘束をしない事は基本であり、玄関も日中の施錠は無い。身体拘束ゼロハンドブックでの研修や、何が、どういう言葉が、禁止用語になるのか等、職員間で身体拘束や虐待防止についてミーティングで検証している。	安全と危険は表裏一体なので、時には制止と捉えられる言葉(表現)が止むを得ない時もあるが、利用者と職員の相互に信頼関係や愛情があればスピーチロックと聞こえる言葉も別の意味合いを持つてくるだろう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員がともに高齢者虐待防止の研修会に参加し、施設内において報告を行い、すべての職員が注意・防止に努めている。またミーティング時に例題を出し勉強会を行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、後見人に対して報告、連絡、相談を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、納得して頂いた後、契約書にサイン・捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いて、家族の意見を聞く場所を設けている。また運営推進会議にも参加の声掛けを行っていて、そこで出た意見や要望を運営に反映させている	開設以来毎年開催している家族会には今回9家族13名の参加があり、運営推進会議の様子を報告したり、意見や要望を聞くようにしているが、特に要望はないと聞いた。「こすもす通信」を発行したり、面会時や電話等で状況報告や連絡事項を話し合っている。	家族からの意見や要望は特にないと聞いたが、家族アンケートのような形や、運営推進会議に参加した利用者に答え易い簡単な質問をして率直な意見を引き出してみる等、いろいろな工夫をしてみてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開き、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	「うちは良いスタッフに恵まれている」との社長の言葉通り、両ユニットの管理者を始め、勤務年数の長い職員が多く、気心の知れた職員同士は仲も良くコミュニケーションもよく取れている。社長と何でも話し合える関係なので、職員の意見や要望が運営によく反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護をしやすいような職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護の力量を見ながら、いろいろな研修会への参加を促している。また外部から実習生を受け入れることにより、実習生の指導をしながら、自分のスキルアップを図る機会をつくっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設交流会を開き、勉強会や意見交換などを行って、相互にサービスの向上に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の話を聞くとき、困っていること・不安なこと・要望を十分に聞きながら、安心して生活できるような関係づくりをしたうえで、サービスの提案を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の話を聞くとき、一番困っていること・不安に思うこと・施設に対する要望などを充分聞いたうえで、施設において、出来ることなどを説明し安心してもらい、サービスに繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、一番本人にとって何が必要かを、本人・家族と話し合い、必要とする支援を見極めている。また、他のサービスの利用も含め検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、本人と一緒に出来ることを探したうえで、出来ることは、なるべく一緒に行い生活を共にするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と色々なことを相談しながら、入居者本人の支援をしている。どんなことでも、家族と相談し、信頼しあい、家族と共に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・同級生・近所の方の面会・訪問があったり、時には、馴染みの場所にドライブに行ったりしている	本日も娘夫婦の訪問があり、楽しく談話したり、今日は来ていない別の娘に電話で話している利用者の姿を見かけた。また、可愛がっていた猫と一緒に入所したという〇〇さんの傍にはいつも愛猫の「チャコ」がいて、職員も利用者も皆で温かく受け入れている様子を究極の馴染みの関係を見た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、世間話をしたり、レクリエーションや洗濯物たたみ・干しなどの家事を一緒にしたりして、利用者同士の関わりがもてている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係を大切にし、必要に応じて、支援や相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思に沿った暮らし方をしてもらっている。困難な場合、なるべく意思に近いかたちでの、生活をして貰えるよう心がけている	フェイスシートには本人のバックグラウンドの記載があり、生活歴をよく把握している。日々の関わりの中で一人ひとりとよく対話し、コミュニケーションを取るよう努めており、思いや希望を生活に活かせるようにしている。	介護記録には気づきや会話、トピックス等が記述されているが、項目欄に空白が目立つので、サブタイトルをつけると職員間でも情報共有しやすい。出来れば身体面等だけでなくもっと精神面をピックアップして記述し、本人の意向としてプランにつなげて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の中に、自宅で使っていた馴染みの物を置いたりして、なるべく生活環境が変わらないようにサービスに努めている。環境に対応できないときは、少しずつでも慣れていただけるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の身体状況、心身状況に合わせた生活を送ることや、毎日の身体状況、心身状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティング時にミニカンファレンスを行い、本人や家族の意見、要望を取り入れたり、職員の意見を反映させ介護計画を作成している。また必要に応じてカンファレンスの場を設けている	ケアカンファレンスの記録を見ても、職員間でしっかり話し合っているのが確認できる。一人ひとりのニーズ(課題)を抽出し、作成したプランに対して定期的にモニタリングしながら、状態の変化や必要に応じて現状に合ったプランにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、日々の気づきなど、職員間で情報を共有しながら、介護を行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しての対応の心がけはできている。サービスの多機能化について、本人や家族と相談しながら対応できるように努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の地域資源を取り入れられるように努力をしている。なかなか地域資源を把握できていない現状がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を受診したり、施設のかかりつけ医の往診が2週間に1度行われている	内科、心療内科の各医師による週1回の往診、週1回の訪問看護、月1回の訪問歯科等があり、医療連携が出来ているので安心して生活出来る。社長が看護職であり、自宅がすぐ近くにあるので緊急時等にはとても心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護を受け、入居者の健康状態を伝え相談している。また日々の関わりの中で、身体の変化があった場合、看護師に相談し病院受診などの対応をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護支援情報提供表にて、病院側にその方の情報を細かく提供したり、病院の方にも訪問し、状態を確認し合いながら、病院との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化時の対応・看取りについて事業所で、出来ること十分に説明し、家族には同意書に署名・捺印を貰っている。先生から、終末期が近づいてきたと言われた場合、再び説明をさせて頂いている	開設して16年の間に数名の看取りの経験はあるが、近年は医療が必要になり病院で最期を迎える例が多い。現在点滴で対応している100才に近い人は、ホームでの看取りを希望する家族の意向を受けてターミナル支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は、応急手当や初期対応の講習などを行い、またベテランの職員が指導し、実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルにそって、全職員が避難の方法を身につけている。地域の消防団の方にも施設の中の避難経路についても確認して頂き、協力体制ができています。	地震等の災害発生時にはホームの前にある中学校に避難するようになっており、定期的に避難訓練もしている。高めの家具には転倒防止用具を設置して安全性に留意しており、夜間想定避難訓練も計画している。地域との連携も出来ている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけや対応に努めている	「声かけがどれだけ大切か、声かけ一つで変わるので日々勉強させてもらっている」と職員。利用者同士の関係では、その人の自尊心を大切にしながらトラブル回避に気を配っている。新しい職員の場合、利用者との信頼関係が出来るまで最初は丁寧な言葉使いをするようにしていると聞いた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり出来るよう、声かけをしたりして働きかけをしている。本人がなかなか意思決定ができない場合が多いので、職員が協力し、少しでも意思決定ができるよう、働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにそった生活が出来るよう心がけてはいるが、時折職員のペースになってしまう場合があるので、注意している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、自分の着たい服を選んでもらったり、髪の毛を整えたり、たまにお化粧をしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いが出来る人には、一緒に作ってもらったり、配膳・下膳ができる人には、手伝ってもらっている	日頃は主食と味噌汁以外は外部委託の食事だが、月1回両ユニット合同のイベントがあり、今日はホットプレートで焼きそばとおやき作り。台所で職員と一緒に下拵えする人もいれば、焼きそばが美味しいとお代わりをする人もいて、賑やかで楽しい食事の光景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた食事量・水分の調節をおこなったり、好みの飲み物を提供したりしている。硬いものなどは、刻んだりして食べやすい状態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夜の2回は必ず口腔ケアを行って貰っている。総入れ歯の方は、入れ歯を夜間、洗浄剤の液の中につけ、朝まで消毒している。食後はお茶を飲んでもらうよう声掛けをしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった定期的なトイレ誘導を心がけている。なるべく、トイレでの排泄を促すようにしている	各居室からトイレへの移動距離が短く、リビングにあるトイレの数も多い。立位不可の人には二人介助で対応するが、殆どの人はいはビリパンツで過ごしており、個々の排泄リズムを把握しながら適宜声かけをしてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を調理したり、しっかり水分補給をしてもらったりしている。少しでも歩いたりして貰い運動につなげている。それでも排泄につながらない場合には、薬の服用で調節する場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように支援している。本人の希望に添った入浴を心がけてはいるが、時々スタッフの都合での入浴になってしまう場合がある。希望により、夕食後の入浴も行っている	リフトを設置しているので殆どの人が浴槽でゆったりと入浴出来ているが、シャワー浴対応の人もある。2日に1回を基本としているが、入浴拒否の強い人には、プライドを傷つけないような言葉かけや、少し時間をずらす、人を変える等して、入浴する事に促われず、話をよく聞いて本人の気持ちを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者、一人ひとりの薬について理解しており、薬を手渡し、服用したかまでをしっかりと確認している。病状の変化に対しても充分確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった、役割や分担を決めて楽しみごとをつくり、気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は、なるべく外に出れるように支援している。地域の行事ごとにも積極的に参加させてもらい、地域への外出もするようにしている。気分転換にドライブに出かけたりもしている。家庭菜園も積極的に作業されている	地域の季節の行事にもよく出かけており、大原のひな祭りや花見、秋祭り、月1回はお元氣りハにも参加している。マンパワー不足で十分とまではいかないが、外出支援には力を入れている。また、天気の良い日は両棟をつなぐテラスで日光浴や外気浴をしたり、近所を散歩して気分転換をしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理の出来る方はして頂いています。そして、ご自分の好きなものを職員に買って来て欲しいと頼まれたりします。しかしほとんどのの方がご自分で金銭管理ができないので、こちらが、管理している状態です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、自由ですので、出来る範囲内でやって頂くように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者が混乱をまねくようなものは置かないようにしています。室温・湿度には特に注意しています。季節感のある飾り物などをし、楽しめる空間作りを心がけています	玄関やリビング全体に手作り作品が展示され、まるでギャラリーのようになっており、創作活動の活発さがうかがえる。利用者と職員との会話も賑やかな笑いで溢れ、来年の干支の作品作りにも熱心に取り組んでいた。玄関のイノシシの壁絵も独創的で完成が楽しみである。	今は2ユニットだが、元は独立した形で出発したグループホームなので、それぞれの間取りや趣きが異なるのも面白い。お互いのユニットを行き来して合同でするイベントは利用者にとっても良い刺激になっているので、今後も活発な交流を期待している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、気のあった人同士がソファに座って話しをしたり、個人が思うような場所で生活している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、使い慣れたものを置いたり、自分の趣味の物を置いたりし、住みやすい工夫をしている(使い慣れた筆筒・写真・テレビ・ぬいぐるみなど)	新規入所者がある度に注文して作った立派な木の表札が個々の居室前に掛けてある。思い出の品や調度品を持ち込み、家庭の延長のような環境で、家族の写真に囲まれたり、自由に好きなテレビ番組を見る等、思い出にゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく「出来ること」「わかること」はして頂き、安全に生活が送れるよう支援している		